

■ 10th anniversary special article

創刊 10 周年記念特別投稿

東京医療保健大学大学院医療保健学専攻生関連報文 10 年間の分析

—感染制御学、滅菌供給管理学、周手術医療安全学—

医療関連感染誌創刊より 10 年を記念して

**Published Papers by the Students and Postgraduates of
Tokyo Healthcare University Postgraduate School for these Ten Years
—Division of Infection Prevention and Control, Division of Perioperative Healthcare
Safety, and Division of Sterilisation and Supply Management—
At Tenth Year after Foundation of Journal of Healthcare-associated Infection**

小林 寛伊

根岸感染制御学研究所所長，東京医療保健大学 / 大学院名誉学長，関東病院名誉院長

Hiroyoshi Kobayashi, MD PhD CICD

Director, Negishi Infection Prevention and Control Centre
Honorary Chancellor, Tokyo Healthcare University
Honorary Executive, Kanto Medical Center NTT EC

1. はじめに

東京医療保健大学大学院医療保健学専攻は、2007年4月開設以来10年を経過した。そして、“医療関連感染 Journal of Healthcare-associated Infection (JHAI)” は、2008年7月5日に創刊号刊行以来、10年目を迎えた。そこで、この10年間の、著者が専門とする教育・研究・実践分野である感染制御学、滅菌供給管理学、および、周手術医療安全学の3分野において、JHAIの2008年第1巻1号から2017年第10巻1号までを中心に、その他の学会誌を含めて、東京医療保健大学大学院生および修了生が投稿した報文の全体的分析を試みた。

2. 対 象

分析の対象は、JHAI 2013 ; 6 (1) から JHAI 2017 ; 10(1) までの東京医療保健大学大学院生関連掲載報文を中心とし、その他の学会誌等も含めて、東京医療保健大学大学院医療保健学専攻 感染制御、滅菌供給管理、周手術医療安全の各分野で学んだ大学院修了者が執筆した報文のうち、原著、短報、報告、文献分析、速報、その他で、著者が共著者となっている報文、および、大学院において指導に関与した報文を対象として分析を試みた。

3. 結 果

分析対象となった報文は、合計 94 編で、2007 年 1 編、2008 年 11 編、2009 年 19 編、2010 年 9 編、2011 年 15 編、2012 年 7 編、2013 年 11 編、2014 年 7 編、2015 年 8 編、2016 年 3 編、2017 年 3 編であった¹⁻⁹⁴⁾。その内容の分類は、表 1 に示すとおりである。それら論文において、原著には ** 印、短報 (JHAI における規定：独創性に富む論文で、明確な新知見を認めるものの、原著としては不十分な論文、環境感染学会誌も同様) には * 印を付した。原著は 29 編、短報は 47 編であった。

表 1 報文の内容による分類

関連分野	報文数
病棟・外来	16 ^{2, 3, 8, 17-19, 20, 22, 29-31, 52, 75, 80, 84, 94)}
滅菌	20 ^{6, 7, 10, 12, 23, 46, 47, 56, 62, 65-72, 79, 93)}
消毒	20 ^{4, 5, 13-15, 24, 25, 27, 33, 39, 42-45, 48, 50, 73, 82, 83, 85)}
洗浄	10 ^{11, 28, 40, 51, 53, 61, 63, 64, 76, 89)}
手術	7 ^{1, 16, 26, 36, 60, 74, 90)}
環境清浄化	5 ^{54, 57-59, 88)}
技術	8 ^{9, 34, 37, 38, 41, 49, 55, 79)}
鍼施術	3 ^{21, 32, 35)}
その他	5 ^{78, 81, 86, 87, 92)}
合計	94

4. 考 察

今回、JHAI を中心に、東京医療保健大学大学院学生関連報文に関して分析を試みたが、JHAI は、2008 年 7 月 5 日に創刊され、「刊行にあたって」という巻頭言⁹⁵⁾において、「この度、東京医療保健大学大学院医療保健学研究科感染制御学では、第 1 回公開講座を、メインテーマ“感染制御の歩む道”と題して、2008 年 7 月 5 日 (土)、13 時より東京ステーションコンファレンスにおいて開催することになりました。この公開講座では、現在の専任教職員および大学院前期 2 年生全員が、講座の役割を担うことになり、講演集を当日資料として配布できるように企画いたしました。その企画段階で、どうせ講演集を作るのであれば、後に残せるようなものにしたと考え、更に欲をこめて、いつそのこと感染制御に関する定期行物にしてはどうかという結論に到達しました。——中略——この雑誌が、近い将来、専門誌として原著論文の掲載に関しても高い水準を得られるか否かは別問

題としても、英文誌としての道をも歩んでいければ、国際的にも評価される日本の感染制御に関わる情報誌として評価されていくことが可能でありましょう。」と記載した。その役割は、一部果してきているものとする。

JHAI および関連学会誌に掲載された、10 年間の大学院医療保健学専攻 感染制御、滅菌供給管理、周手術医療安全、各分野関連 94 編¹⁻⁹⁴⁾ の分析結果は表 1 に示したが、それらの中には、原著が 29 編、JHAI 投稿既定に、“独創性に富む論文で、明確な新知見を認めるものの、原著としては不十分な論文(環境感染学会誌も同様)”と規定されている短報が 47 編認められた。94 編の課題内容は、論文一覧¹⁻⁹⁴⁾に見られるごとく多岐にわたっており、研究課題が幅広い分野に跨っていることを示している。

このことは、感染制御関連研究の目指す分野は、感染症学の対象とは領域が異なり、これと重複する部分はあるにしても、医療全般に及ぶ横断的、且つ、広範囲な学問分野であることを示し、今回の分析対象に見られる研究課題に止まらず、より広領域にわたった研究対象を有しているものとする。

一方、47 編の短報に関しては、新規性は認められていながら、原著となりえなかったことを残念に思っている。2015 年度までは発行人として、投稿以後は介入すべきでないとし差し控えてきたが、指導者としては、論文の内容を検討しなおし、再投稿を指導すべきであったと慚愧の念に堪えない。

2 年間の修士コース、3 年間の博士コース、という非常に限定された大学院の研究期間で、学位論文をまとめることは、決して容易ではなく、テーマの選択に関する適切な指導が不可欠である。修士コースの 2 年間であれば、最初の半年は、関連文献考察に基づく課題選択に費やされ、この間、広い視野を持って考えられるよう指導する必要がある。そして、研究を実際におこなう期間は、約半年であり、残りの 1 年は、研究結果の補充整理と論文執筆とに費やさなければならない。このような短期間に学位論文を作成することは、研究活動に必ずしも慣れていない再教育社会人が対象であることを考慮する時、これまでの 10 年間、各大学院生それぞれが、よくここまで業績を残してきたと、唯々関心、感激する次第である。特に、課題の選択に当たっては、研究する対象として分析すべき因子が、明確に限定できるものを選ばなければならない。その為には、幅広い視野で、実行

可能な研究課題を模索し、当該学生に適した選択を指導することが不可欠である。多くに因子分析を必要とする研究は、以後一生の課題として追及すべきものであり、大学院生活においては、限定された期間にまとめられる研究に取り組むことが必須条件である。しかも、meta-analysisの対象となりうるような研究成果が期待される。分析研究する因子が限定された課題を選択して限られた期間に学位論文を作成し、それをより広く発展、展開していくのは、学位取得後の人生においてなすべきことであり、各現場での日常業務の中に研究的視点を維持し続けることで人生を楽しむことに繋げてほしい。

社会人教育を目的とし、医療の現場での経験を経た人材の再教育を目指してきた大学院として、向学の念に燃えて集まった大学院生が、夫々多方面の話題をとらえて、見事に研究をおこない、結果を示していることが今回の分析から明確となり、大学院生各位に改めて心よりの敬意を表したい。

このような素晴らしい結果は、阿吽の呼吸で片腕となってくれた大久保憲教授をはじめとし、三宅寿美、菅原えりさ、吉田理香、比江島欣慎、小栗豊子、奥切恵、各教授のきめ細かい指導の賜物であった。招きに快く応じてご就任下さった、経験豊かな有名人である本大学院医療保健学専攻の柴孝也、炭山嘉伸、藤井昭、品川長夫、小島和彦、野口玉雄の各教授は、大学院開講時、文部科学省の認可を得る条件に不可欠な役割を果たしてくれ、その後、10年近くにわたる大学院の前述実績に多大な貢献をもたらした。更に、梶浦工、賀来満夫、永井勲、中田精三、尾家重治、石塚紀元、田口正博、森兼啓太、上寺祐之、アクセル・クラマー、リュイ・リー、ハン・スー・オー、金容鎬、ジョナサン・オッター、ジェラルド・イー・マクドネル、各非常勤教授（順不同）の直接的・間接的研究指導を無視できない。また、非常勤（順不同）の遠藤博久、奥住捷子、清水俊明、浅岡伸太、竹内千恵、伏見了、岩田哲郎、住谷健二、池田英夫、中川進、その他の各教育職員をはじめ、大学開設当初より学長の私的諮問委員会として、医療関連企業のトップで組織したスクリー委員会（推進力とネジを締めるとの2つの意味を持つ）委員の松本謙一、荻野和郎、更家悠介、松永修一、岡田敏行、夏野雅博、故吉田俊介、の各客員教授、等多数の学外専門家による懇切丁寧な指導が、なくてはならないものであった。

今回の分析結果を礎にして、東京医療保健大学大学

院医療保健学が、より多くの社会人再教育に門戸を開き、才能を秘める人材再勉学の機会を提供し、医療分野のサービス向上に大きく貢献することを切望して止まない。その為には、指導教官も、常に勉学に勤しみ、医療横断的な広い視野を取得していく必要がある。また、専門分野が細分化してそれぞれが深いものとなってきている今日、この傾向は将来さらに顕著となっていくであろうが、一個の指導者としては、それら専門分野すべてに精通することは不可能であり、各分野の専門家と連携し、その専門的指導を仰ぎ、それらを生かして研究体制を調整していくという役割を担わなければならない。この様な指導体制を可能とする幅広い知識と経験とを身に着け、研究の調整役となっていく指導者の存在が強く望まれる。連合王国、アメリカ合衆国、ドイツ連邦共和国等においても、臨床細菌学者が、外科系分野をも含む幅広い知識を持って日常業務、研究業務にあたっているという状況を良く理解し、そのような能力を発揮できる人材が、教育、啓発の軸となっていることを見習うべきである。こうした力を養いつつ、業績をも積み重ねた人材が、これからの感染制御関連分野を動かしていく推進力となっていくことであろう。そして、人間関係を大切に、国際的にも信頼される人物となることが、指導者としての必須条件である。日本の次世代において、このような指導者の存在が数多くみられる新時代到来が切望される。

更に当大学院の研究指導者に求められるものは、紀元前からの過去に述べられている関連分野における数多くの注目すべき発言と業績、そして、指導者自身の臨床現場に結びついた研究業績に基づく幅広い知識、これらを熟考して見直し、新しい時代に向けての研究課題および単期間でまとめ得る研究内容を模索選択することのできる能力である。通常の大学院に求められる一専門分野に限定して深く掘り下げる研究ではなく、広域から選択する次世代へのエビデンスを形成するアイデアが要求される。これを可能にして初めて、当大学院の特徴ある存在が国際的にも認められる結果招来を可能とするであろう。

また、当大学院で学んだ修了生は、前述した如く多くの素晴らしい業績を残してくれたが、大学院設立の趣旨の如く、夫々の現場に立ち戻って、大学院で学んだ経験を礎に現場業務の中心として活躍して居り、研究の継続は、それらが意義ある課題であっても、研究者ではない

故、困難なことである。大学院で経験した研究の姿勢を現場に生かすことは可能であっても、優れた研究テーマを持続して究明していくことには一部を除いて、残念ながら無理がある。このような課題を解決すべく、後を継ぐ大学院生の研究に発展的展開を期待することは、我儘な希望であろうか。2007年以來の関連分野において大学院生が残してくれた業績が、更に見直されて次世代の研究に結びつき、新しい医療サービス構築に役立っていくことを心から望んで止まない。

謝辞：東京医療保健大学大学院医療保健学専攻感染制御学、滅菌供給管理学、および、周手術医療安全学の各分野における研究に多大な貢献を齎してくださった上記常勤並びに非常勤教育職員各位に心より感謝の意を捧げる。当大学院は、看護師として現場業務に専務する学生が多く、研究指導に当たって、新井晴代、三宅寿美、坂本すが、3看護部長経験者の助言が、数多くのヒントを与えてくれたことは真に有難く、特記すべき点である。また、側面から心温まる支援をしてくださった、大学院医療保健学専攻 寺澤博事務長、諸田清事務長に深謝する。更に文末に成ったが、開講以來、アドミニストレイティブ・アシスタントとして十二分の力を発揮し、大学院の大きな支えとなって貢献してくれた川下範子さんに深く感謝の意を表する次第である。

分析対象論文一覧：Reference

**：原著

*：短報（JHAIにおける規定）：独創性に富む論文で、明確な新知見を認めるものの、原著としては不十分な論文（環境感染学会誌も同様）

1. 竹内千恵, 齋藤祐平, 小林寛伊. 滅菌安全の立場から見た Loan Instruments. *手術医学* 2007; 28: 272-274. <http://jaom.kenkyuukai.jp/journal2>
2. * 佐々木昌茂, 小林寛伊, 大久保憲, 竹内千恵, 齋藤祐平, 菅原えりさ. 「効果的介入」について～High impact interventions と Care bundle を中心に～. *JHAI* 2008; 1: 22-24. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525104926.pdf>
3. * 村野大雅, 小林寛伊, 木下佳子, 米山多美子. ICUにおける看護師の動き. *JHAI* 2008; 1: 25-28. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525105045.pdf>
4. 遠藤博久, 小林寛伊, 大久保憲. 手指衛生—アルコール擦式消毒薬の効果について—. *JHAI* 2008; 1: 30-34. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525104653.pdf>
5. 高橋敦子, 小林寛伊, 大久保憲. 消毒薬の副作用. *JHAI* 2008; 1: 35-38. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525104733.pdf>
6. * 竹内千恵, 小林寛伊. 医療現場における滅菌保証. *JHAI* 2008; 1: 39-41. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525105222.pdf>
7. * 齋藤祐平, 小林寛伊, 大久保憲, 上寺祐之. 単回使用器材の再使用. *JHAI* 2008; 1: 45-48. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525105248.pdf>
8. ** 黒須一見, 吉川 徹, 小林寛伊, 大久保憲. 空気感染予防のための呼吸器感染防護具の漏れ率に関する基礎的研究. *JHAI* 2008; 1: 49-52. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525121033.pdf>
9. ** 菅原えりさ, 梶浦 工, 小林寛伊, 大久保憲, 尾家重治, 齋藤祐平, 遠藤博久, 竹内千恵, 佐々木昌茂, 高橋敦子, 宇賀神論, 鶴島信孝. 手指細菌叢回収に関する検討. *JHAI* 2008; 1: 53-53. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525121210.pdf>
10. * Takeuchi C, Kobayashi H. Survey on Sterilization Validation Practice in Japanese Hospitals. *JHAI* 2008; 1: 57-61. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525121301.pdf>
11. * 菅原えりさ, 梶浦 工, 小林寛伊, 大久保憲, 尾家重治, 齋藤祐平, 遠藤博久, 竹内千恵, 佐々木昌茂, 高橋敦子, 宇賀神論, 鶴島信孝. 洗浄用スポンジによる医療機器器材洗浄. *JHAI* 2008; 1: 70-72. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525122305.pdf>
12. 竹内千恵, 小林寛伊. 滅菌保障に関する実態調査報告書3. *JJMI* 2008; 78: 433-445.
13. Tokuda J, Kobayashi H. Effectiveness and Problem of alcohol-based hand rub on hand hygiene. *JHAI* 2009; 2: 7-12. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024319.pdf>
14. * 遠藤博久, 小林寛伊, 大久保憲. エタノール接触皮膚障害症例と交差反応について. *JHAI* 2009; 2: 13-17. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024413.pdf>
15. * 高橋敦子, 小林寛伊, 大久保憲. クロルヘキシジングルコン酸塩によるアナフィラキシー反応. *JHAI* 2009; 2: 18-19. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024444.pdf>
16. * 齋藤祐平, 上寺祐之, 小林寛伊, 大久保憲. 術前皮膚消毒に用いる消毒薬の使用量に関する検討. *JHAI* 2009; 2: 20-21. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024523.pdf>
17. * 久留野紀子, 小林寛伊, 大久保憲, 比江島欣慎. 尿道留置カテーテルにおける留置期間短縮への試み. *JHAI* 2009; 2: 22-24. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024547.pdf>
18. * 黒須一見, 馬美奈, 佐藤しのぶ, 鴻巣晶子, 小林寛伊, 大久保憲. 超音波ネブライザー管理基準の変更による汚染度の改善. *JHAI* 2009; 2: 25-28. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024610.pdf>
19. * 佐々木昌茂, 小林寛伊, 大久保憲, 竹内千恵, 齋藤祐平, 菅原えりさ. 「効果的介入」に関する研究～新しい視点日本版 Care bundle の試み～. *JHAI* 2009; 1: 29-33. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024637.pdf>
20. * 松村 千夏, 小林 寛伊. 2007 年度 methicilin-resistant Staphylococcus aureus 病院感染症サーベイランス. *JHAI* 2009; 2: 34-35. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024702.pdf>
21. * 菅原正秋, 小林寛伊, 大久保憲, 菅原えりさ, 黒須一見, 宮本俊和, 吉川恵士. 鍼灸術における感染制御対策の現状と問題点—大学臨床施設の鍼灸師の手指衛生行動を中心とした観察から—. *JHAI* 2009; 2: 36-39. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525024957.pdf>
22. * 吉田理香, 小林寛伊, 大久保憲. 病院環境が及ぼす行動変容, 小児病棟における感染制御対策の向上. *JHAI* 2009; 2: 40-43. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525025051.pdf>
23. * 高田 恵, 小林寛伊, 大久保憲, 品川長夫, 藤井 昭, 永井勲, 賀来満夫, 辻 明良, 西村チエ子. クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) プリオンによる汚染手術器械対策. *JHAI* 2009; 2: 44-47. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525025138.pdf>

24. * 久留野紀子, 小林寛伊, 大久保憲, 比江島欣慎, 梶浦 工. 短時間ラビングによる手指衛生. *JHAI* 2009 ; 2 : 57-60.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525033238.pdf>
25. * 曾川芳郎, 小林寛伊, 梶浦 工, 遠藤博久. ジェルタイプアルコール手指消毒薬はクロルヘキシジンの持続的殺菌効果を阻害するか? *JHAI* 2009 ; 2 : 61-65.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525033300.pdf>
26. * 吉田理香, 小林寛伊, 大久保憲, 品川長夫, 藤井 昭, 永井勲, 賀来満夫, 辻 明良, 西村チエ子, 古山信明. 日本における手術時手洗いの現状. *JHAI* 2009 ; 2 : 66-70.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525033334.pdf>
27. Sugawara E, Kobayashi H, Kajiura T, Sogawa Y, Endo H, Takeuchi C. The Hand Hygiene Behaviors of the Public in Response to the Pandemic Influenza A (H1N1) in Japan. *JHAI* 2009 ; 2 : 71-73.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525033405.pdf>
28. * 高田 恵, 小林寛伊, 大久保憲, 梶浦 工. 洗浄用スポンジによる膿盆洗浄. *JHAI* 2009 ; 2 : 74-76.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525033525.pdf>
29. * 鶴飼浩子, 小林寛伊, 大久保憲, 比江島欣慎. 在宅血液透析患者の透析環境について. *JHAI* 2009 ; 2 : 81-85.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525033614.pdf>
30. * 松村千夏, 小林寛伊, 大久保憲, 比江島欣慎. Methicillin-resistant Staphylococcus aureus 病院感染症 サurveyランス 2007-2008 年度. *JHAI* 2009 ; 2 : 86-89.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525033638.pdf>
31. * 西山正恵, 小林寛伊, 大久保憲, 津村 宏, 比江島欣慎. インフュージョン・コントロール・チーム (ICT) ラウンド時の介入実施状況に関する調査研究. *JHAI* 2009 ; 2 : 90-97.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525033751.pdf>
32. 菅原正秋, 小林寛伊, 大久保憲, 比江島欣慎, 梶浦 工, 菅原えりさ, 黒須一見, 坂井友実. 鍼灸師養成学校における感染防止対策の実態調査. *環境感染* 2010 ; 25 : 223-227.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsei/25/4/25_4_223/_pdf
33. * 曾川芳郎, 小林寛伊, 梶浦 工, 遠藤博久. アルコール製剤のクロルヘキシジン活性阻害について—中間報告—. *JHAI* 2010 ; 3 : 1-5. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150526034812.pdf>
34. * 曾川芳郎, 小林寛伊, 梶浦 工. 抗菌効果の評価のための細菌播種試験の実験条件に関する検討—皮膚に播種された細菌の生残菌数の推移の視点から—. *JHAI* 2010 ; 3 : 6-9.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150526034912.pdf>
35. * 菅原正秋, 小林寛伊, 大久保憲, 比江島欣慎, 梶浦 工, 菅原えりさ, 黒須一見, 坂井友実. 鍼灸師養成学校における手指衛生教育の実態調査. *JHAI* 2010 ; 3 : 10-13.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150526034937.pdf>
36. * 岡崎悦子, 小林寛伊. 業者貸出手術器械 Loan Instruments の使用前洗浄の現状. *JHAI* 2010 ; 3 : 14-17.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150526035003.pdf>
37. * 曾川芳郎, 小林寛伊, 梶浦 工, 菅原えりさ, 竹内千恵, 遠藤博久. ラバーポリスマンを用いたカップスクラブ法による皮膚細菌の採取法の有用性. *JHAI* 2010 ; 3 : 19-23.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150526041730.pdf>
38. * 曾川芳郎, 小林寛伊, 梶浦 工, 菅原えりさ, 竹内千恵, 遠藤博久. 前腕屈側部における皮膚常在菌数の個人差および採取部位による差. *JHAI* 2010 ; 3 : 24-27.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150526041749.pdf>
39. * 菅原えりさ, 小林寛伊, 梶浦 工, 比江島欣慎, 曾川芳郎, 遠藤博久, 竹内千恵. 手指に播種した芽胞に対する各種の手指衛生方法の効果について. *JHAI* 2010 ; 3 : 37-40.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150526041920.pdf>
40. * 竹内千恵, 小林寛伊, 梶浦 工, 大久保憲, 遠藤博久, 菅原えりさ, 曾川芳郎, 齋藤祐平. 鋼製小物の洗浄に関する微生物学的な研究「汚染モデル器材を用いた用手洗浄の評価」. *JHAI* 2010 ; 3 : 41-44.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150526041943.pdf>
41. ** 伏見 了, 高階雅紀, 小林寛伊, 大久保憲. 臨床使用後の上部・下部消化管内視鏡および気管支鏡における漏水検出率について. *JHAI* 2011 ; 4 : 1-4.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527111014.pdf>
42. * 小林マキ子, 小林寛伊. ノロウイルス対策としての蒸気加熱処理. *JHAI* 2011 ; 4 : 5-8.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527111116.pdf>
43. * 曾川芳郎, 小林寛伊, 梶浦 工. クロルヘキシジングルコン酸塩水溶液とアニオン系物質を混合した際の性状変化と殺菌活性の変化. *JHAI* 2011 ; 4 : 9-13.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527111231.pdf>
44. * 曾川芳郎, 小林寛伊, 梶浦 工. クロルヘキシジンの殺菌活性を阻害するアルコールジェル手指消毒薬の簡易識別法. *JHAI* 2011 ; 4 : 14-18.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527111258.pdf>
45. * 嶽本智子, 小林寛伊, 大久保憲, 梶浦 工. 臨床現場を反映したアルコールラビングの定量的評価. *JHAI* 2011 ; 4 : 19-24.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527111545.pdf>
46. 吉田理香, 小林寛伊, 田中加津美, 浦井美香. 過酸化水素滅菌における化学的インジケータの課題. *JJMI* 2011 ; 81 : 414-430.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjmi/81/5/81_5_414/_pdf
47. * Yoshida R, Kobayashi H. Hydrogen Peroxide Vapour in the Proximity of Hydrogen Peroxide Sterilisers. *Jpn J Environment Infect* 2011 ; 26 : 239-241.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsei/26/4/26_4_239/_pdf
48. ** 菅原えりさ, 小林寛伊, 大久保憲. 二重盲検ランダム化比較試験による 0.5w/v% クロルヘキシジングルコン酸塩含有エタノール擦式製剤と他の 2 種類のクロルヘキシジングルコン酸塩含有エタノール製剤との目視による皮膚評価の比較検討. *JHAI* 2011 ; 4 : 67-76.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527120102.pdf>
49. * 菅原えりさ, 小林寛伊. 粘着テープによる環境からの細菌回収方法の試み. *JHAI* 2011 ; 4 : 11-12.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527124445.pdf>
50. * 菅原えりさ, 小林寛伊, 梶浦 工. 臨床現場の手指衛生行動に基づく、少量、短時間のアルコールラビングの効果. *JHAI* 2011 ; 4 : 13-15.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527124517.pdf>
51. * 竹内千恵, 小林寛伊, 梶浦 工. 鋼製小物の洗浄に関する微生物学的な研究「汚染モデル器材を用いた超音波洗浄の評価」. *JHAI* 2011 ; 4 : 16-19.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527124537.pdf>
52. * 佐々木昌茂, 小林寛伊, 吉田美智子. 夜勤帯の手指衛生のコンプライアンス向上の試みについて. *JHAI* 2011 ; 4 : 20-24.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527124628.pdf>
53. * 岡崎悦子, 小林寛伊, 梶浦 工. 業者貸出手術器械 Loan Instruments の汚染評価に関する検討—尿検査試験紙による定性的評価の試み—. *JHAI* 2011 ; 4 : 25-28.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150527124650.pdf>
54. 吉田理香, 小林寛伊. 医療環境表面の殺菌方法 蒸気化過酸化水素 Hydrogen Peroxide Vapourised について. *感染制御* 2011 ; 7 : 521-525.
55. ** 黒須一見, 小林寛伊, 大久保憲. 各種 N95 微粒子用マスクの漏れ率に関する基礎的研究. *環境感染* 2011 ; 26 : 345-349.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsei/26/6/26_6_345/_pdf
56. 吉田理香, 小林寛伊. STERRAD[®] に関するアメリカ合衆国食品医薬品局医療機器有害事象報告 (MAUDE) データベースの 2008 年 3 月 4 日～2012 年 1 月 26 日に関する内容 Manufacturer

- and User Facility Device Experience (MAUDE) Database-FDA Adverse Event Report on STERRAD[®] between 4 March 2008 and 26 January 2012. *JJMI* 2012 ; 82 : 284-288.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjmi/82/3/82_287/_pdf
57. ** 加納江利子, 小林寛伊, 大久保憲, 梶浦 工, 比江島欣慎. 各種環境清拭素材の芽胞除去効果の検討—清拭素材、湿度度による影響—. *JHAI* 2012 ; 5 : 1-6.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528013727.pdf>
58. ** 中川いづみ, 小林寛伊. 無菌治療室における清浄度に関する研究. *JHAI* 2012 ; 5 : 7-13.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528013842.pdf>
59. * 吉田理香, 小林寛伊, 梶浦 工. 環境表面の汚染に対する蒸気過酸化水素を用いた清浄化に関する研究. *JHAI* 2012 ; 5 : 18-22. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528013940.pdf>
60. * 岡崎悦子, 小林寛伊, 梶浦 工. 業者貸出手術器械 Loan Instruments の汚染評価—尿検査試験紙による洗浄後評価を試みて—. *JHAI* 2012 ; 5 : 27-28.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528014041.pdf>
61. ** 神明朱美, 小林寛伊, 梶浦 工. 病棟における再使用医用器材の小型食器洗浄機による処理. *JHAI* 2012 ; 5 : 35-38.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528020352.pdf>
62. ** 吉田理香, 小林寛伊. 過酸化水素ガス滅菌法に関する新たな知見. *手術医学* 2012 ; 33 : 273-284.
http://jaom.kenkyukai.jp/journal2/journal_detail.asp?journal_id=789
63. ** Fushimi R, Takashina M, Yoshikawa H, Kobayashi H, Okubo T, Nakata S, Kaku M. Comparison of adenosine triphosphate, microbiological load, and residual protein as indicators for assessing the cleanliness of flexible gastrointestinal endoscopes. *Am J Infect Control* 2013 ; 45 : 161-164.
[http://www.ajicjournal.org/article/S0196-6553\(12\)00710-9/pdf](http://www.ajicjournal.org/article/S0196-6553(12)00710-9/pdf)
64. ** 伏見 了, 小林寛伊, 大久保憲, 高階雅紀. 用手洗浄における濯ぎの現状と導電率を指標とした簡便かつ効果的な濯ぎ方法の構築. *医器誌* 2013 ; 83 : 22-27.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjmi/83/1/83_22/_pdf
65. 小林マキ子, 小林寛伊, 竹内千恵. 滅菌供給業務の現状に関する調査. *医器誌* 2013 ; 83 : 98-102.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjmi/83/1/83_98/_pdf
66. ** 鈴木美千代, 小林寛伊. 低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌装置の有効性. *手術医学* 2013 ; 34 : 37-41.
http://jaom.kenkyukai.jp/journal2/journal_detail.asp?journal_id=791
67. 鈴木美千代, 吉田理香, 小林寛伊. 低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌の滅菌工程と微生物学的菌死滅の確認&ホルムアルデヒド残留の確認. *感染制御* 2013 ; 9 : 139-144.
68. ** Yoshida R, Kobayashi H. Adverse Events with Low Temperature Hydrogen Peroxide Gas Plasma Sterilisation Reported by Certified Sterilisation Service Technicians and Certified Sterilisation Specialists in Japan. *JJMI* 2013 ; 83 : 28-33.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjmi/83/1/83_28/_pdf
69. ** 吉田理香. 過酸化水素低温ガスプラズマ滅菌後のプラスチック素材に残留する過酸化水素濃度について. *手術医学* 2013 ; 34 : 145-153. http://jaom.kenkyukai.jp/journal2/journal_detail.asp?journal_id=1881
70. Yoshida R, Kobayashi H. Influence of Hydrogen Peroxide Sterilisation on Plastic Surface. *JHAI* 2013 ; 6 : 19-23.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528025257.pdf>
71. ** Turushima N, Kobayashi H, Kajiura T, Yoshida R, Shimizu T, Asaoka S, Ikeda H. Suture Biological Indicator for the Narrow Channels of Medical Instruments. *JHAI* 2013 ; 6 : 31-34.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528035331.pdf>
72. ** 高野海哉, 小林寛伊, 竜 端之. 過酸化水素の毒性評価における直接細胞接触法およびコラーゲンゲル包埋培養法の有用性. *JHAI* 2013 ; 6 : 35-39.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528035444.pdf>
73. * 森山由紀, 小林寛伊, 梶浦 工, 吉田理香. 10 秒間の短時間手洗いについての検討—一般人と医療従事者との比較—. *JHAI* 2013 ; 6 : 40-43.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528035512.pdf>
74. ** Saito Y, Kobayashi H, Uetera Y, Yasuhara H, Kajiura T, Okubo T. Microbial contamination of surgical instruments used for laparotomy. *Am J Infect Control* 2014 ; 42 : 43-47.
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/24189327>
75. ** 森山由紀, 小林寛伊, 菅原えりさ. ビデオカメラによる手指衛生遵守率の評価に関する検討. *JHAI* 2014 ; 7 : 24-31.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528040132.pdf>
76. ** 神明朱美, 小林寛伊, 梶浦 工, 吉田理香. 病棟におけるノンクリティカル器材の小型食器洗浄機による清浄化. *JHAI* 2014 ; 7 : 37-44.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528042839.pdf>
77. ** 鈴木美千代, 小林寛伊, 梶浦 工, 吉田理香. 低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌における滅菌コンテナの実用性の検証. *JHAI* 2014 ; 7 : 45-52.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528042839.pdf>
78. ** 萱島すが, 小林寛伊, 吉田理香. 現業を継続しつつ受講する感染制御 6 ヶ月研修の成果に関する検討. *JHAI* 2014 ; 53-60.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528042931.pdf>
79. 清水俊明, 小林寛伊, 吉田理香. 感染制御分野における走査型電子顕微鏡の活用事例. *JHAI* 2014 ; 7 : 61-65. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528042958.pdf>
80. * 菅原えりさ, 梶浦 工, 竹内千恵, 小林寛伊. 医療処置・ケア場面における手指の接触部位に関する検討. *JHAI* 2014 ; 7 : 66-70.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150528043020.pdf>
81. 鈴木明子, 小林寛伊. わが国の感染制御の歴史. *JHAI* 2015 ; 8 : 1-9. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150826104919.pdf>
82. 植田知文, 梶浦 工, 小林寛伊. 海外における殺菌・消毒薬の効力評価法 — 欧州、米国の試験規格の比較. *JHAI* 2015 ; 8 : 10-16. <http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150826104949.pdf>
83. ** 小林義正, 小林寛伊, 梶浦 工, 菅原えりさ. 次亜塩素酸ナトリウム含浸環境清拭クロスの残留塩素濃度に関する検討. *JHAI* 2015 ; 8 : 17-26.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150826105015.pdf>
84. * 石井 幸, 小林寛伊, 梶浦 工, 菅原えりさ. 患者動作運動モデルを用いたシーツを介した細菌透過に関する検討. *JHAI* 2015 ; 8 : 27-30.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150826105034.pdf>
85. 神明朱美, 小林寛伊, 梶浦 工. 腹部エコープローブにおける紫外線照射による殺菌効果の検討. *JHAI* 2015 ; 8 : 31-34.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150826105053.pdf>
86. 西川美由紀, 小林寛伊, 梶浦 工, 菅原えりさ, 遠藤博久. ニトリルゴム手袋における消毒用エタノール接触による引張耐性の変化. *JHAI* 2015 ; 8 : 35-38.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150826105110.pdf>
87. ** 河瀬里美, 菅原えりさ, 梶浦 工, 黒須一見, 小林寛伊. 医療従事者の手指から検出される芽胞形成菌に関する検討. *JHAI* 2015 ; 8 : 43-53.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20160325114311.pdf>
88. ** 高橋陽一, 吉田理香, 小林寛伊. 過酢酸の蒸気濃度測定 ～ 過酢酸ガス検知器による実験的個人曝露濃度測定～. *JHAI* 2015 ; 8 : 54-62.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20160325114342.pdf>
89. ** 竹内千恵, 梶浦 工, 小林寛伊. 鋼製小物の洗浄評価に関する細菌を用いた基礎研究「汚染モデル器材を用いた洗浄の評価

- 価」. *JHAI* 2016 ; 9 : 14-22.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20160711050255.pdf>
90. ** 田中加津美, 吉田理香, 小林寛伊, 清水俊明, 住谷健二. 我が国で汎用される止血鉗子の力学的性能評価に関する検討. *JHAI* 2016 ; 9 : 23-31.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20160711050340.pdf>
91. * 別宮尚美, 吉田理香, 小林寛伊, 梶浦 工. エチレンオキサイドガス滅菌後の医療用プラスチックにおけるエアレーション時間の予測. *JHAI* 2016 ; 9 : 33-41.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20170410024836.pdf>
92. ** 西川美由紀, 菅原えりさ, 梶浦 工, 小林寛伊. 医療用ニトリルゴム手袋の引張強さに及ぼすアルコール手指衛生の影響. *JHAI* 2017 ; 10 : 1-8.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20171024084941.pdf>
93. ** 岡崎悦子, 森山由紀, 小林寛伊. サージカルマスクのインフルエンザ予防効果. *JHAI* 2017 ; 10 : 9-17.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20171024085000.pdf>
94. ** 神 貴子, 小林寛伊. 滅菌バッグ無菌性破綻のリスク. *JHAI* 2017 ; 10 : 29-37.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20171024085103.pdf>
95. 小林寛伊. 刊行にあたって. *JHAI* 2008 ; 1 : 0.
<http://www.thcu.ac.jp/uploads/imgs/20150525102352.pdf>